



輝いている人

## 住宅用火災警報器の設置、 まだの家庭は急いで

住宅用火災警報器の普及とPR活動に取り組む

住警器マンさん(小寺)

市民を火災から守ろうと、既存の住宅も含め今年5月末までに設置が法律で義務付けられている「住宅用火災警報器」の普及と設置を呼び掛ける活動をしているのが住警器マンだ。

火災による煙や熱を感じし、「火事です。火事です」と音声で火災の発生を知らせる住宅用火災警報器。それを腰に2つ、頭に1つ装備し、さっそうとPRに現れる。

一見すると無口のようにだが、意外に饒舌らしい。得意技は、煙を感じする嗅覚が並外れ、それをいち早く知らせることだ。決めポーズは、イナバウアーのような姿勢で警報器を高々と掲げて見せること。「寝室と階段の天井につけてね」と、やさしく呼び掛け、去っていく。

昨年11月には、保健福祉

大会が開催された市民会館の舞台での寸劇に登場。大きなネズミが仏壇の線香とろうそくを倒して発生した火事を、家人に知らせるべきを得た。「いい活動ができた」と振り返る。

総社市の設置率は推計(平成22年1月調査)で全世帯の約3割と低い。期限まで残された時間も少なく、消防長からは「全国には君の仲間が多い。彼らに負けないようにしっかりとPRしてほしい」と激励された。「警報器のことを知ってもらいたい。そして、命を守るための道具だと伝えたい」。託された使命を全うしようと意気込む。

この一年、市内では建物火災が多くあった。今の建物火災で怖いのは、炎より煙だ。「だからこそ住宅用火災警報器。まだの家庭は急いで」と力を込めた。

このコーナーでは、輝いている人を募集しています。あなたの周りにキラッと輝いている人がいたら、ぜひとも広報そうじや編集室(企画課)までご一報ください。自薦・他薦は問いません。



## 親子のスキンシップ



「抱っこ、スキンシップは子どもの心身の成長を促す」とよく言われますが、抱っこはなぜ大事なのでしょう。

生まれたばかりの赤ちゃんは、お母さんの胸に抱かれて、おっぱいを飲みながらお母さんの心臓の鼓動を聞き、お母さんを見つめ合いながら、心身ともに成長していきます。お母さんがやさしく声を掛け、心ゆくまで抱っこしてあげてください。子どもは、自分のどんな感情も受けとめてもらえたと感じ、安心できるのです。

しっかりと抱っこされた体験は、子どもの心の中に満足感と安心感を与え、人と人との基本的信頼感の基礎にもなっていくのではないのでしょうか。抱っこは、乳幼児期だけと思われがちですが、小学校にあがる前後の子どもさんにもどうぞ。「もう大きくなったんだから…」などと言わず、ときどきはお子さんをギュッと強く抱きしめてあげてください。どんな励ましの言葉よりも「抱っこ」は大きな力をもっています。

問い合わせ こども課母子保健係 (☎92-8261)

抱っこをしてもらっている西江葉蘭ちゃん(5歳)。お母さんの栄子さん(井手)は、「妹ができて、ときには抱っこするように心掛けています」と教えてくれました。

## キッズにっこり 家庭応援談

12

## 栄養委員さん おすすめおやつ

### 関東風さくらもち

(1個分 77kcal)



#### ◆材料・数量(12個分)

- 白玉粉……20g
- 砂糖……25g
- 水……180~200cc
- 薄力粉……100g
- 練りあん……250g
- 食紅……少々
- 桜の葉(塩抜きをする)……12枚

#### ◆作り方

- ①練りあんを12等分に丸める。
- ②白玉粉に水(2/3量)を少しずつ加えて混ぜる。
- ③砂糖と薄力粉を加え、食紅で色をつけ、残りの水で硬さを調節する。
- ④熱したホットプレートに小判型に流し入れ、上面が乾いたら裏面も焼く。
- ⑤④を皿にとり冷まし、あん巻き、桜の葉を巻く。